

今年一年を振り返って



会長 廣瀬修 (A4神奈川)

にご出席いただきありがとうございます。参加された会員の方からは、個人面談や懇親会で、大学が身近な存在になったとの感想をいただき、今後の励みになりました。

また、地懇と同日に10支部で支部総会が開催され、新支部長が就任されました。新体制のもと、今後益々、各支部がそれぞれの特色をもつて活動されることを期待したいと思います。

11月19日の特別事業委員会で、本年度の特別事業として補助させていただいた喫煙所整備の完成状況を確認しました。そして次年度は、学生自治会の倉庫新築工事に對し協力する方向とし、同日の理事会で認められました。次回の特別事業委員会で設置場所などの詳細を詰めて行きます。

今年度、大学は様々なメディアに広告を発信していますが、後援会のホームページも、より見やすく、スマホにも対応できるバージョンに近タリリニューアルされます。是非ご覧下さい。

来る2018年が会員の皆様と大学にとって幸多き一年となります。すことをお祈り申し上げます。

後援会会員の皆様、2017年の師走となりましたが、いかがが過ぎましたでしょうか。平素より後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。いよいよ2019年5月1日より新元号になることが固まりました。昭和、平成と合わせ3つの元号を生きたことになりそうと複雑な気持ちです。

今年一年を振り返ると、これほど様々な業種で日本のものづくりのあり方を問われた年はなかったのではないのでしょうか。自社の利益だけを追い求めず、今年の流行語大賞となった「付度」を良い意味で使い、何も言われなくても、相手のことを思っで行動することが大切だと思えます。

さて、後援会の目玉事業である「地域別教育懇談会」が9月から10月の間、全国22会場で行われ、無事終了しました。各支部の支部長をはじめとする役員の方々の運営準備と努力の賜物です。そして大学、事務局の皆様には、ご協力と各会場

平成29年度 地域別教育懇談会

～全国22会場で開催されました～



全体会で挨拶をする成田学長 (静岡県支部会場)



個別面談の様子 (千葉県支部会場)



全体会の様子 (長野県支部会場)



全体会の様子 (福島県支部会場)

後援会の目玉事業である「地域別教育懇談会」が初めて企画されたのは昭和48年のことでした。地方から宮代の地に出てきて一人暮らしをする学生を心配する会員の要望にこたえて、大学事務局が主体となって実施されました。第一回が山形県の

天元山荘、第二回目が兵庫県の有馬温泉での開催でした。参加された会員からは大好評で、毎年開催して欲しいとの声が多数寄せられました。開催の計画・準備・運営の作業量は想像以上に膨大で限界がありました。そこで当時の小淵会長が各地域に支部を設立することを発案。大学にお膳立てしてもらったのではなく、支部が準備、主催し、後援会本部が協力する体制が出来上がれば開催地の増加は不可能ではない、と理事長に提案したそうです。そのような経緯で後援会支部が設立され、支部が独自の「地域別教育懇談会」が確立されたのです。

そして、今日まで、各支部のご尽力のおかげで「後援会支部主催」という他大学とは一味違う、決して真似のできないアットホームな地域別教育懇談会の開催が続いていることは、本当に奇跡的なことと言っても良いのではないのでしょうか。開催にあたっての支部役員の皆様のご苦労は計り知れないですが、日々変化する世の中で、このような伝統ある会が脈々と受け継がれていくことは、とても意義があると思います。人と人が直接顔を合わせ、心を通わせることは、今や大変貴重な時間です。参加された会員からは、「このようなチャンスを利用しないのはもったいない」との声を多数いただいています。来年も一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

平成29年度地域別教育懇談会実施結果一覧

(M=機械工学科 P=ものづくり環境学科 S=創造システム工学科 E=電気電子工学科 C=情報工学科 A=建築学科 L=生活環境デザイン学科)

主催支部名	月日(曜)	開催市町村	開催会場名	対象地域	会員数	出席者数	大学側出席者
岩手県支部	9月 9日(土)	平泉町	ホテル武蔵坊	岩手県	27	15	小崎准教授(M) 渡部教授(S) 清水助教(E) 山地教授(C) 吉野教授(A) 樋口佳准教授(L)
千葉県支部	9月 9日(土)	千葉市	バーディーホテル千葉	千葉県	290	16	藤田学園事務局長 野口准教授(M) 内田教授(P) 樋口勝教授(S) 石川豊教授(E) 佐藤教授(C) 吉野教授(A)
山梨県支部	9月 9日(土)	笛吹市	ホテル春日居	山梨県	25	10	神野教務部長 二ノ宮教授(M) 石原教授(C) 佐々木教授(A)
長野県支部	9月 9日(土)	長野市	ホテル信濃路	長野県	91	26	竹内学生支援部長 細田教授(M) 大澤教授(P) 秋元准教授(S) 竹村准教授(E) 大宮准教授(C) 三坂教授(A)
北陸支部	9月16日(土)	富山市	富山電気ビルディング	富山県 石川県 福井県	15	10	長坂教授(M) 池添准教授(S) 江藤准教授(C) 田中准教授(A)
静岡県支部	9月16日(土)	静岡市	アイワンホール	静岡県	33	16	成田学長 細田教授(M) 平栗教授(E) 勝間田准教授(C) 小川教授(A) 足立教授(L)
新潟県支部	9月17日(日)	長岡市	長岡グランドホテル	新潟県	61	20	竹内学生支援部長 丹治講師(M) 秋元准教授(S) 吉野教授(E) 桑野准教授(C) 竹内准教授(A) 黒津教授(L)
茨城県支部	9月17日(日)	土浦市	ホテルマロウド筑波	茨城県	377	51	高木准教授(M) 増本講師(M) 鈴木教授(P) 伴教授(S) 田村准教授(S) 於保教授(E) 清水助教(E) 新井教授(C) 松田准教授(C) 三坂教授(A) 小川教授(A)
栃木県支部	9月17日(日)	宇都宮市	ホテル丸治	栃木県	361	45	古閑教授(M) 大島教授(M) 桑原准教授(P) 滝田准教授(S) 青柳教授(E) 木村准教授(E) 大山教授(C) 北久保准教授(C) 神林准教授(C) 安野教授(A) 木下准教授(A) 瀬戸教授(L)
近畿支部	9月17日(日)	尼崎市	ホテルホップインアミン	大阪府 兵庫県 京都府 奈良県 和歌山県 滋賀県	16	8	林総務部長 村田教授(M) 佐野教授(S) 山地教授(C) 箕輪助教(A) 板橋教授(L)
青森県支部	9月23日(土)	青森市	青森国際ホテル	青森県	75	21	神教育研究推進室長 張教授(M) 安原教授(P) 吉澤教授(S) 進藤助教(E) 高瀬教授(C) 上田助教(A) 瀬戸教授(L)
秋田県支部	9月23日(土)	秋田市	秋田温泉さとみ	秋田県	15	7	中野教授(M) 竹村准教授(E) 生駒教授(C) 西本教授(A)
蔵王支部	9月23日(土)	山形市	悠湯の郷ゆさ	山形県 宮城県	69	15	神野教務部長 長坂教授(M) 新倉教授(S) 大田助教(E) 橋浦助教(C) 木下准教授(A)
福島県支部	9月23日(土)	郡山市	清稜山倶楽部	福島県	105	34	成田学長 野口准教授(M) 榎橋准教授(S) 木村准教授(E) 松浦助教(C) 田中准教授(A) 板橋教授(L)
群馬県支部	9月24日(日)	高崎市	高崎ビューホテル	群馬県	287	29	瀧澤准教授(M) 小崎准教授(M) 丹澤教授(P) 宮川教授(S) 吉田教授(E) 木許准教授(E) 辻村教授(C) 吉野教授(A) 菊田准教授(A) 勝木准教授(L)
西中国支部	9月30日(土)	広島市	ホテル法華クラブ広島	広島県 山口県 島根県	6	1	伴教授(S) 大宮准教授(C)
東中国支部				岡山県 鳥取県	3	2	
沖縄県支部	9月30日(土)	那覇市	沖縄県青年会館	沖縄県	6	2	藤田学園事務局長
本部(北海道)	10月 1日(日)	札幌市	KKRホテル札幌	北海道	11	3	松永教務部事務部長
本部(四国)	10月 1日(日)	高松市	高松シティホテル	四国	15	1	佐藤LCセンター長
本部(九州)	10月 1日(日)	福岡市	サンライフホテル2・3	九州	12	2	磯財務部副部長
本部(近県)	10月 8日(日)	宮代町	大学	東京都 埼玉県 神奈川県	2,349	149	成田学長 神野教務部長 竹内学生支援部長 神教育研究推進室長 各学科主任8名 林総務部長 倉島財務部長 松永教務部事務部長 副部長・課長7名 M6名,P2名,S4名,E5名,C6名,A3名,L1名,H2名
東海支部	10月15日(日)	名古屋市	東京第一ホテル錦	愛知県 三重県 岐阜県	13	2	林総務部長 石原教授(C) 竹内准教授(A)
合計			22会場		4,262	485	延べ165名

※職名は開催日現在

茨城県支部創立40周年 記念式典・祝賀会を挙

11月26日(日)、茨城県土浦市の「ホテルマロウド筑波」にて茨城県支部40周年記念行事が挙行されました。式典の最後に郡司支部長から成田学長に設立40周年を記念して寄付金(10万円)の目録を贈呈いただきました。

同支部は平成51年12月に6番目の支部として設立されました。設立時は151名であった会員数も平成20年のピーク時には461名を数え、今でも385名を有する会員数No.1の支部です。当日は、本部から廣瀬後援会会長、大学から柳澤理事長、成田学長、藤田学園事務局長、飯島後援会事務局が出席しました。歴代支部長をはじめとする役員OBも多数参会し、盛大な祝賀会となりました。会の途中で全員の自己紹介が行われ、当時の思い出話やご子息・ご息女の近況報告などもあり、懐かしく温かなムードの中、10年後、50周年での再会を祈念して閉会となりました。

支部合同大学視察研修を実施

大学祭開催期間に合わせ、10月28日(土)、青森県・福島県・栃木県・千葉県・新潟県の各支部が、翌29日(日)には群馬県支部より、有志の会員とご家族が大学視察研修に訪れました。28日は、L.Cセンターにて成田学長の講話を聴いた後、新食堂棟、新学生クラブ棟、工業技術博物館等を見学し、会員相互の親睦を深めました。



福島県支部・新潟県支部の皆様

栃木県支部の皆様

学長を囲んで(青森県支部の皆様)

千葉県支部の皆様



コラム **支部活動を思う** 本紙1頁に記したような経緯から、会員の発意により、昭和51年、第1番目の支部として新潟県支部を皮切りに5支部が設立されました。そして、40年という長い歴史を歩んで来ました。その後も続々と各地で支部設立の声が上がり、現在19の支部が活動されています。一番新しい千葉県支部も早くも20周年を迎えました。

支部設立には、相当な熱量が必要です。数名の有志の熱い思いが一気に実を結び、支部が結成されました。一方、それを受け継いでいくのにも相当なエネルギーを必要とします。その時代時代で、様々な考え方があり、ムードがあります。学生のためにという共通の思いのもと、計り知れないご苦労を共有しながらも互いの絆を深め、支部活動にご尽力いただいている支部役員の皆様には本当に頭が下がります。これからも、支部の特色(地域性)を活かしつつ、楽しく活動を継続していただければ有り難いなと勝手ながら願っております。(1)

支部連絡協議会を開催



11月18日(土)、大学学友会館において支部連絡協議会(支部長会)を開催しました。成田学長臨席のもと、全国から支部長らが参集し、地域別教育懇談会や日頃の支部活動について報告しました。積極的に意見交換がなされ、他支部の状況を聞いて参考にするなど有意義な会となりました。



群馬県支部40周年を記念して寄贈されたモミジ



千葉県支部20周年を記念して寄贈されたハンカチの木



感謝状の贈呈を受ける長尾前近畿支部長

以下の支部で支部総会が開催され支部長が交代しました。

支部名	開催日	新支部長(敬称略)
山梨県支部	9/9(土)	三村 義人
長野県支部	9/9(土)	村上 悟
静岡県支部	9/16(土)	井上 香
北陸支部	9/16(土)	上田 高司
近畿支部	9/17(日)	門河 良典
茨城県支部	9/17(日)	郡司 政美
新潟県支部	9/17(日)	大崎 剛
群馬県支部	9/24(日)	井口 克三
沖縄県支部	9/30(土)	稲福 藤子
東海支部	10/15(日)	中田 智昭(再任)

支部長交代

平成29年度 環境分野研究奨励助成金採択研究テーマ

研究テーマ及びチームの構成		研究の概要
1	研究テーマ 落雷および音波を用いた外的刺激によるシイタケ栽培促進法の確立 研究代表者 平栗 健史 (E科教授) 教職員 ：E科 大田健紘、進藤卓也 学生 ：E科4年 大和田雅也、3年 伊達隆人、2年 駒澤雅玖人	研究の目的は、椎茸の計画生産向上手法として、椀木に外部からの刺激を与えることにより、生産量増加と効率化を実現する技術を確立する。古来より落雷が多い地域では椎茸の発生促進が良いと言われている。その効果を解明するために、椀木周辺に人工雷を発生させ検証した結果、従来の2倍以上の生産量が得られることを確認した。実験では直接電気を椀木に流していないことから、電氣的刺激だけでなく衝撃波の影響を仮説として立てた。本研究では、落雷特性を模倣した衝撃波を発生する音波システムを開発する。このシステムが完成すれば、数百以上の椀木に同時に刺激を与えることが可能なため、栽培促進の向上だけでなく、生産の大幅な効率化が期待できる。また環境保全面では、雷の大電力を用いず省エネ化を図り、音波という安全な手法で計画生産向上を実現できる。
2	研究テーマ 蒸気機関車でのバイオコークス使用に向けたライブスチームでの評価・分析の研究 研究代表者 奈良 勇輝 (S科2年) 教職員 ：オブザーバー：P科 八木田浩史、S科 渡部修一、工業技術博物館職員 五月女浩樹 学生 ：S科2年 阿部恵彦、M科3年 植木悟、遠藤将太	蒸気機関車は主に石炭を燃料としているため、一般的に環境に悪いものとされている。そこで、石炭の代替燃料としてバイオコークスを使用できないかと考えた。本研究では、バイオコークスを用いたライブスチームにて走行実験を行うことで、環境に配慮して蒸気機関車を運転することを目的とする。さらに、燃焼中の排ガスや燃焼後の灰を分析することで、バイオコークスを使用することがどの程度、環境に良いのかを評価する。併せて、イベントで子供たちなどにライブスチームに乗ってもらうことで、実体験を通して環境対策について学んでもらう目的もある。
3	研究テーマ 本館～14号館間にある池の景観改善に関する研究 研究代表者 荒井 達喜 (A科3年) 教職員 ：オブザーバー：I科 樋口佳樹 学生 ：A科3年 妻島光洋、里見勇飛、古谷宏貴、綱中怜也、平野雄大、濱口聡史、弦巻勇輝、玉田慶吾、西口祐乃	本館～14号館の間にある池の汚染の様子を薬品等で把握。池の地理・生態・設備などを調査し、これらに負荷を与えず良い影響を与えるような浄化設備の設計・製作をおこなう。宮代町で発生する竹の間伐材の有効利用するため、竹炭を浄化の触媒の一つとして取り入れる。
4	研究テーマ 低環境負荷な高分子合成システムの開発 研究代表者 新倉 謙一 (S科教授) 学生 ：S科3年 坂下晃太郎、佐々木一成、土谷尚弘、渡邊侑弥	サイエンススクールといった学内イベントにおいて、「高分子合成」のデモンストレーションは実生活で使われている物作りを体験できる魅力的なテーマである。しかし一般的に有機溶媒が用いられるなど、オープンスペースで実施しにくいといった欠点がある。そこで本提案ではデモンストレーションのための高分子合成を、低環境負荷かつより安全な溶剤や原料で行うための化学的手法の確立を目指す。
5	研究テーマ ウルトラファインバブルによる大学構内床の洗浄を実現する環境に優しい装置の開発 研究代表者 二ノ宮 進一 (M科教授) 学生 ：MS1年 長倉智史 (リーダー)、邱駿皓 (サブ)、MS2年 土屋俊一、塩島亜木斗、M科4年 石川光祐、田中竣哉、春日啓次、柳澤輝一、川内勇輝、古澤吉泰、M科3年 村本結衣、雨宮裕貴	当研究室では、2000年頃からマイクロバブルによる液体の洗浄の研究を行っており、機械油の洗浄に効果があることを示している。最近では、ウルトラファインバブルがネクスコ高速道路のトイレ洗浄等にも採用され、多くのSAで見かけるようになった。本研究では、工作機械をピンとした回転ホイール式簡易バブル発生装置を開発して、大学構内の床掃除を洗浄レスで実現することを目的とする。
6	研究テーマ 大学排水中のリン含有量調査とそれを通じたリン回収資源化プロセス提案の試み 研究代表者 内田 祐一 (P科教授) 学生 ：P科3年 飯泉了大、江里川敦也、大倉野宇士、野島功名、細野芽依、渡邊知穂	リンは動植物の生命維持に必須の元素である。日本は全量を輸入に依存し資源リスクが懸念されているが、使用済みリンの回収再利用には多くの課題が存在する。本テーマでは、リン資源循環について考える端緒として、大学排水中のリン含有量を分析調査する。併行して、大学からの排水の流れ着く公共下水処理施設を訪れ、下水汚泥等のリン含有副生物の状況についても調査を行う。これら調査結果を基に大学を取り巻く地域のリンフローを整理し、学生視点も交えてリン回収資源化プロセスの提案まで試みることで、学生および地域社会への啓蒙を図る。

平成29年度 後援会特別事業

屋外喫煙所整備への補助

11月19日には、特別事業委員会による視察

設置されました。比較的、人が通行しない場所を考慮し、3ヶ所にBOX型の喫煙所がばれる中、大学キャンパス内においても分煙化を徹底するべく、比較的人が通行しない場所を考慮し、3ヶ所にBOX型の喫煙所が



特別事業委員会による現地視察の様子

5月の定期総会において、平成29年度特別事業としてご承認いただいた屋外喫煙所整備が完工し、補助しました。受動喫煙の問題が叫ばれる中、大学キャンパス内においても分煙化を徹底するべく、比較的、人が通行しない場所を考慮し、3ヶ所にBOX型の喫煙所が

が行われ現地を確認しました。また、同委員会において、平成30年度の特別事業は「学生自治会倉庫の建設」とする方向で一致し、同日の理事会に報告し、承認を得ました。次回委員会できさらに詳細を詰めていきます。

相談票

学科学年	
学籍番号	
氏名	
会氏名	
連絡先	TEL

相談票をご利用下さい

後援会では会員各位にこの相談票を通じて、いつでも学生の成績・生活・就職等)相談に応じられる窓口を開いています。右の票(便箋、ハガキでも結構です)に相談されたい事項や、ご意見・ご希望等)記入の上、事務局宛に)送付下さい。可能ながぎり回答します。(ご投書・ご寄稿も)ごしお寄せください。(事務局)